

トピックス

1. 涙の銀メダル

2. 働いて働いて働いて働いて...



福留経営労務管理事務所  
姫路龍馬会  
社会保険労務士・行政書士  
福留章

# 龍馬通信

No. 97

2026年3月号

啓蟄～春分の候

明日を生きる

冬籠りの虫たちにとって  
待ち焦がれた 春の訪れ  
静かに 確かに ゆっくりと  
春待ち人 それぞれの心に  
ようやく 春の光が  
春風 春嵐 風光る

寂しさを超えたところに  
喜びがある  
悲しみを 堪えた先に  
幸せがあると  
そんな言葉に支えられて  
毎日を生きている

周りを見れば 意外と  
たくさん仲間がいる  
寄ると触ると  
病気と血圧の話  
足腰が痛い  
手がしびれるなど

人は人に 自分のことを  
知ってもらうだけで  
ほっと安堵の息をつく

早朝のラジオ体操  
いつの間にか十数名に増えている  
所作は頼りなく

体は不安定だが  
その人なりに 精一杯  
体動かしている  
早咲きの桜の木の下で  
笑顔と笑い声ははじける  
日本の平和の風景  
甘えたような声 労わるような声

人生は気持ちの持ちよう  
すっかり変わる  
生きることに飽きたら終わりだ  
一日一日を 新鮮に生き  
自分の未来は自分で開く  
良きにつけ 悪きにつき  
責任など何もない  
自分自身の納得だけが頼り

あきらめたら未来はない  
夢を語り 体を動かす  
そんなことで明日へのエネルギーが  
生まれる  
働いて 働いて 働いて・・・  
と言う訳にもいかないが  
ほんの少しの夢の 欠片 (かけら) を胸に

今を生きる 今日を生きる  
そして 明日を生きる





# 播州日誌

## 涙の銀メダル —ミラノ・コルティナ五輪—

23日未明（日本時間）ミラノ・コルティナ冬季五輪が、17日間の開催を終えて閉幕した。日本選手の活躍には、目を見張るものがあり、期間中のメダルラッシュに列島中がわいた。個性的なアスリートたちの、それぞれの思いが、4年間の厳しい鍛錬の日々を経て競技に演技に爆発した。その思いは日本人の心の琴線に触れ、列島を歓喜と感動で包み込み感涙の雨を降らした。初出場もいた、レジェンドと呼ばれるベテランもいた。すべての選手が日ごろの鍛錬の成果を最大限に発揮した。それが伝わるからこそ、列島が沸いて震えた。新聞では毎日のように大見出しの活字が躍り、地元では号外も出た。TVはハイライトを連続して放映し繰り返した。

感動した場面の一つ一つを挙げれば枚挙に暇が無い。私たちに馴染みの薄いスケートボード。この街角の遊びから始まったようなスポーツは年々進化を遂げプロスポーツとしての地位を確立した。その若者たちののはつらつとした躍動ぶりは大会前半を歓喜で彩った。

次から次へと繰り出される新しい技、危険と隣り合わせのギリギリの技。それが見事なシルエットを描きカッコよく美しい。着地した時は本当にほっとする。大人から見れば空中高く舞い上がる姿に驚くばかりだ。青空に彼らのくるくる舞う姿が印象的だ。競技名のいちいち解らないが、男女とも出ればメダルと言う状況。女子で初出場金メダルの深田茉莉選手、21歳の村瀬心花選手は2種目で金と銅メダル。男子初出場金メダルは木村葵来選手。年齢層が低いのが魅力で今後とも日本のお家芸になるかも知れない。

スピードスケートでも、高木美帆選手の活躍が目立つ。最後の1500mでは失速して6位に沈んだが、パシュートと1000mと500mで銅メダル。五輪通算10個目のメダル獲得は常人のなせる技ではない。

フィギュアスケートも目覚ましい成績を上げた。特に目立ったのが「リク・リュウ」のペア。SPで自慢のリフトでミスを犯し5位からのFP。絶望的な失点を克服し、自己最高、世界史上最高得点の大逆転金メダル。その一糸乱れぬペアの演技は芸術的でさえあり、見ている者の心を揺さぶる大熱演であった。フィギュアスケートは銀盤の花ともいわれる。特に女子の華麗な舞と確度の高いジャンプの数々は目を見張るものがある。

兵庫県出身の坂本花織選手。この競技の第一人者の地位を保ちながら、五輪での金メダルはなく、引退をかけ最後の五輪での金メダルだけを目指して雌伏4年。このことだけにかけて練習に耐えてきた。SPでは2位、必勝をかけた攻めの演技は圧感ではあったが最後の演技という事で肩に力が入っていたように思えた。金メダルは米国のアリサ・リュウ21歳。美しいスタイルとどっしりとした演技は優勝に相応しい出来栄え。坂本との差は1.89点。3回転フリップの小さなミスが明暗を分けた。「涙の銀メダル」「坂本 戦い抜いた」「坂本 有終 新たな道へ」「くやしさも4年間の試練の証」など大活字が並ぶ。それは偉大なアスリートへの最大限の賛辞であったと思われる。





初出場の中井亜美選手 17 歳は大舞台をものともせず、堂々と演技切って銅メダル。まだかわいらしさが目立つ彼女だが、回転の速いジャンプなど、伸び代は十分。今後に期待がかかる。4 位の千葉百音選手 21 歳も初出場。全力を出し切ったがメダルには届かなかった。順位決定後、上位の選手に賛辞を贈る姿に感動した。

金・銀・銅の 3 つのメダルは永遠に輝く。しかし忘れてはならないのは、惜しくも僅差でメダルを逃した選手たち、全力を尽

くしたが力尽きて低位に沈んだ選手たち。この五輪を最後に引退する選手たち。すべての選手に祝福と賛辞を贈りたい。次への戦いはすでに始まっている。

またこの五輪を影で支えた大会役員、コーチ、審判団、ボランティアの人たちの尽力に感謝の拍手を送りたい。

スキーノルディック複合の渡部暁斗選手も最後の五輪を戦い抜いた選手の一人。健闘むなしく 6 位（団体）となった。試合後のインタビューで「花びらの最後の一枚が散るところまで見てもらったことに感謝」「最後の 1 枚が後に続く者の道標（みちしるべ）になれば本望」という言葉を残して会場を去った。ついに奇跡は起こらなかったが、人々の心に記憶される偉大な選手だった。レジェンドたちの未来が明るく輝かしいものであるように祈る。

スポーツに国境はなく、選手たちは愛と友情に包まれ、共に笑い、共に泣き、共に喜び

お互いを尊重し、励まし慰め合って貴重な時間を共有した。五輪は平和の祭典であり、政治色は一切除かれる。しかし世界は大会中も紛争や分断、宗教的な争い、飢餓や貧困の現実の中にあり、地球の未来に暗い影を落とす。五輪を通じて人々が心を寄せ合うことの幸せが、いかに大きく明るいものであることかと知らされる。

ミラノ・コルティナ五輪の成功を祝福すると同時に、平和の大切さを再認識し、争いのない、分断のない世界の実現を望むものである。

2026. 2. 23

## 働いて 働いて 働いて 働いて.....

「また 年寄りの繰り言」と言われそうだがあえて書く。

流行語大賞に輝いた高市総理の「働いて、働いて、働いて、働いて参ります。」の発言が物議をかもしているという。民主主義の時代、反対意見や少数意見も尊重されなければならない。それにしても何でもかんでも反対するのが最近の常識らしい。しかもオールドメディアではなく SNS などでの発言が多い。特に気になったのが、過重労働によりうつ病を発症し、過労自殺するに至った

遺族からの抗議。曰く過労死した本人と遺族に対する冒涇だと。この言葉のどこにそのような問題があるのだろうか。高市氏は自民党の総裁選挙で次期総裁に選出された直後の記者会見で先の発言をした。純粋に粉骨砕身、仕事をするという決意の発露であり、これまでの行政の動きの鈍さと対応の遅さに業を煮やした発言と思う。大方の人はそれでこそ新時代を切り拓く、首相のあるべき姿として賞賛の拍手を贈った。

過重労働を推奨するわけでもなく少なくとも過労死自殺の遺族に対して侮辱したものでもない。労働基準法は「仕事を止める権利」を認めており、現在は転職がトレンドな時代であり CM も多い。やめる権利を行使する道もあったはずだ。それにしても高市氏の発言が過重労働を推奨するものだと、どの文脈からの切り取りだろ



高市首相

新語・流行語大賞は「働いて働いて…」

うか。高市総理はその後有言実行し、歴代総理にはなかったきっぱりとした切り口で様々な公約の実現に向けて分刻みのスケジュールをこなしている。持病のリウマチをものともせず政策実現に向けて八面六臂の活躍が続き、側近が体調を危惧するほどだといわれる。

団塊の世代がすっぽりと後期高齢者となった現在。戦後の復興と高度経済成長支えたのが団塊の世代であることは異論がない。働いて、働いて、働いて寸暇を惜しんで働いた。結果 GDP を世界第 2 位に押し上げ空前の所得倍増に成功した。欧米の注目を浴びたが、働き過ぎとして「時短」の外圧をかけてきた。ドイツでは働き過ぎの外圧に屈して大幅な時短を決行。年間 2000 時間を超えていた労働時間を 1600 時間台に減少させた。結果経済は停滞し、失業者が溢れ、生活が疲弊し移民政策に手を付けた。多くのドイツ人は時短を後悔している。現在は 1900 時間程度に復活している。

反省もある。確かに働きバチ状態ではあった。家族を顧みない会社人間が多かった。しかし多くの人は濃厚に家族を愛し、芯のところでしっかりと心をつかんでいた。戦後のベビーブームの中、産めよ増やせで子たくさん。貧しさに堪えながらも子供を養育した。兄弟姉妹の仲はよく助け合い親を助けて生きていた。アトピーや花粉症などはなかった。水道の水を飲んだ。洗濯板で洗濯もした。働いて働いたおかげで少しずつ楽になった。みんな明るく元気だった。夫婦の絆も固く離婚率は世界でも低い方だった。家族への愛は大きな見えない鎖のようなものでしっかりと結びついてた。子供の自殺や不登校などもなかった。

豊穡の国日本。豊かさの功罪は明らかであり、それは先進国共通の悩みでもある。出生率は下降を続けており、日本は超高齢化社会になってしまった。IT や AI の進化は高齢者の生活を圧迫する。大きな社会の流れとして IT 化はやむを得ないという認識はあっても生活上例えばスマホ注文スマホで決済という事になると、高齢者にとっては大きな壁となる。IT 難民は増える事が有っても減ることはないと思われる。育児も教育も国の未来を左右する重大な課題である。念のために言えば、量より質の育児が大切であり、教育が必要なことは言うまでもない。勤勉さは日本人の伝統的な国民性である事を付け加えておく

2026. 2. 24

## 福留事務所のみんなにあれこれ聞いてみよう！

- ① 春になったら？
- ② 最近の出来事



福留先生

1. 親子で毎年行っていた姫路城の「千の小径」と市川堤の桜を見に行く🌸
2. 春到来。  
事務所的にも新規の顧問契約成立あり



康博さん

1. 新しい靴を買って散歩したい
2. 梅のつぼみが膨らんでいた。  
春の訪れを予感した。



江平

1. お弁当持って公園に行く!!
2. 先日祖父が亡くなりました。  
当たり前の毎日は当たり前じゃないと再認識です😓



松本

1. 今年こそいちご狩りに行きたいと思ってます🍓笑
2. 子供の今年度最後の行事があり感動してウルウルでした😭

